



デジタル技術を駆使し、世界市場を動かす製品を開発

盛岡に本社を置く「デジタル・カルチャー・テクノロジー 『デカルト』」は、高度なIT技術を縦横無尽に活用し、今までになかったソフトウェア開発を手掛けている注目企業である。社長の藤原隆司さんは起業家大学の一期生。今回は日々挑戦を続ける藤原社長に、商品開発の秘けつやアントレプレナーの心構えを語ってもらった。

インターネット黎明期に起業を決意

日本において、インターネットが民間レベルにまで浸透しはじめたのは90年代初頭。その数年後には商用プロバイダも登場し、接続サービスが始まっている。とはいえ当時のインターネットはまだ一部の人のものであり、一般市民の認知度はそれほど高くはなかった。

藤原隆司さんの会社「デジタル・カルチャー・テクノロジー DICULT(デカルト)」は、96年、まさにそんなインターネット黎明期のまっただなかに誕生したITベンチャー企業である。

起業をするまで、藤原さんは市内のコンピュータ会社でシステム設計からプロジェクトマネジメントまでを担当していた。その仕事のなかで「インターネットを普及させることは、今の時代のビジネスチャンスではないか」との考えが膨らんでいったと話す。かくしてIT業界の最前線で培ったスキルとアイデアを武器に起業を決意した藤原さんは、ビジネスの知識を得る方法として各種セミナーに参加しようと思いつく。その情報収集のなかで当センターが初めて「起業家大学」を開講するというニュースも知ったという。成長のさざしを見せ始めていたインターネット、そして起業を支援する大学開講のニュース。時流を敏感にとらえ、藤原さんの起業家としての第一歩は始まったといえるだろう。

デカルトの哲学を企業理念に据えて

高度なスキルに加え、すでに自身の



「ソフト開発は、形は見えないけれど製造業と同じ」と社長の藤原隆司さん。コミュニケーションを大事にするのも客のニーズをダイレクトに掴むためだ。

会社へのビジョンも持っていた藤原さんだが、起業家大学で学んだ「アントレプレナー(起業家精神)」は、今も記憶に残っているという。

社会の変化をチャンスととらえ、その中で自分の夢を実現するために新たな事業を興していくという姿勢は、起業家にとってなによりも大切なもの。そういった精神面での発見を得て、藤原さんは大学修了と同時に独立、会社を立ち上げた。社名の「デカルト」は、フランスの高名な哲学者の名前である。

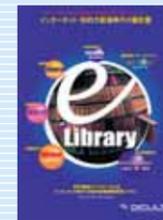
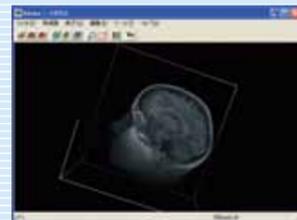
「デカルトは、その哲学論により近代文明の夜明けを作ったといわれる人。私も彼にならい、これからの時代のビジネ

ス文化とビジネスモデルを創造する企業を作ろうとの願いをこめています。」

目指すものは、新たな社会文化、企業文化、地域文化、経済文化を創造していく21世紀型価値創造企業「デカルト」の会社案内に綴られている藤原さんの言葉に、アントレプレナーとしての決意を感じとることができる。

モノづくりはまずニーズありき

創業当初はウェブ制作を主な業務としていた「デカルト」だが、現在のソフト開発へと事業転換するきっかけとなったのは、4年ほど前に自治体からの要



- 1 「e-Libraryシリーズ」@マイページ「シリウス」はじめ、メール配信システム「D-mailer2001」、チケット予約管理システム「D-Ticket2001」、街頭情報端末「ネットキオスク」...多くの知的ソフトがこの空間から生まれている。
- 2 社員は現在13人。「地元の企業として、地域の受け皿にもなっていきたい」と話す藤原さんは雇用にも意欲を燃やす。今年は2名の新卒者を採用している。
- 3 研究機関と大学とのコラボレーションで、今年4月登場したばかりの「シリウス」は、高度な技術に使いやすいユーザーインターフェースを備えた画期的な製品。これをベースにさらに進化させた医療用ソフトとしての開発も行う予定だ。
- 4 「DICULTON」は、企業におけるeビジネス戦略をサポートするITビジネスソリューションパッケージ。情報技術を効果的に導入するための最適なハード・ソフトウェアの選定からサポートまでを一貫して行う。
- 5 WEB版図書蔵書管理システム「e-Libraryシリーズ」は、小学校・中学校向けの「ほんたくん」、高校・大学向けの「ピタゴラス」、企業・一般図書館向けの「パスコ・ダ・ガマ」など目的別のソフトが揃う。

望にこたえて開発したウェブ上の仮想図書館だ。ネットで借りたい本を検索し、メールにより予約を入れたのち指定の学校図書室などで受け取るというこのシステムは、現在はさらに進化したソフト群「e-Library シリーズ」として県内外で使用されている。

これ以後も「デカルト」では多彩なソフトを世に送り出しているが、特に注目はウェブ上で情報発信側と受け手の双方向コミュニケーションを可能にしたシステム「@マイページ」と、CTやMRIなどの2次元人体断面画像を3次元画像に変換できるシステム「シリウス」の2つ。前者は自治体において住民参加型の総合ポータルサイトを実現するものとして、後者はウィンドウズPC上で動作する世界初の製品として医療現場で期待されている。

「モノづくりはまずニーズありき。そのために色々な人に会って話を聞くことは欠かせない」と、藤原さんは商品開発の秘けつを話す。「e-Library シリーズ」しかし、実は「シリウス」も行政機関や大学関係者との交流が共同開発へと結びついて誕生した製品なのだ。そんな

同社のパートナー企業も、東北はもとより関東圏へも広がっている。「会社って眉間に皺寄せて一人でやるものじゃない。「一緒にやっぺいこう」という気持ちこそが大事であり、コラボレーションの重要性をいつも感じています。」

アントレプレナーとして模範になる会社を

起業から8年。一見、藤原さんの道のりは順調そのものだが「数々のトライ&エラーを繰り返してきた」と振り返る。「夢を持つことは大事ですが、それが現実にビジネスとして成立するかきちんとリサーチし、かつリスクを知らないこの厳しい時代には生き残れない。生半かな気持ちじゃ起業はできないと思います。」

経営者として経験した数々の苦勞。しかし「それが結果的には人間的な成長につながった」とも藤原さんは言う。支えているのは、アントレプレナーとしての使命感と夢である。「中小企業には、大企業にはない『技術』といふ財産があります。うちでは『シリウス』

という商品を開発しましたが、これからも岩手から世界の市場を動かすニッチ製品を出していきたい。そういう中小企業が数多く登場することが、地域の活性化にもつながると信じています。」

数々の投資ファンドの登場や研究機関・大学との連携など、今は事業を取り巻く環境もよくなってきているという。「起業家大学一期生として模範になるような会社にしたい」と語る藤原さんの挑戦は、これからも続く。



会社名 株式会社デジタル・カルチャー・テクノロジー「デカルト」
 住所 盛岡市中央通3-17-7 KANNO第2ビル
 TEL 019-606-1070
 FAX 019-621-7339
 代表 藤原隆司
 業種 ITソリューション・アプリケーション開発・ネットワークシステム構築

お問い合わせ先 新事業支援課 TEL 019-621-5070 FAX 019-621-5481
 URL <http://www.joho-iwate.or.jp/info/sogyo> E-mail joho@joho-iwate.or.jp